

新潟みなとまち文化の象徴

古町芸妓



目次 CONTENTS

特集 |

1~2 新潟みなとまち文化の象徴 古町芸妓

3 にいがたCITY NOW
●庁舎・事務室が移転
●火の用心で安心なまちへ

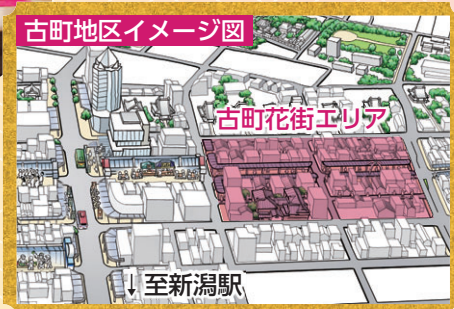
4 ●12月議会定例会閉会
●八区魅力発見⑥～東区編～
●市内ホテル・旅館と協定を締結
●かかりつけ医などに電話相談を
●市内産の花を楽しもう

5 連載 学校支援ボランティア
にいがたで働く
おでかけナビ

他3ページは区役所だより
「情報ひろば」は別冊で発行しています

新潟市は、みなとまち文化を象徴する古町花街を守り、発展させていくための取り組みを関係団体と連携して行っています。今号では、伝統文化を継承しようと日々技芸を磨く古町の若手芸妓と、古町花街の景観の整備について取り上げます。

問 古町芸妓の育成支援について…観光政策課(☎025-226-2608)
古町花街の景観整備について…まちづくり推進課(☎025-226-2703)



情緒感じる石畳の通り

新潟市は昨年3月に策定した「古町地区将来ビジョン」に基づき、古町芸妓がいる古町花街エリアで「湊町新潟の歴史と文化が薫るまちづくり」を進めています。昨年6月に西新道の整備が完了し、花街エリアの主要な通りがすべて石畳になりました。立ち並ぶ伝統建築と合わせて、みなとまち情緒が感じられます。



新潟の花街の歴史は、古くは江戸時代の前半にまでさかのぼるといわれています。明治30年ごろ、大火などを契機に古町の東西新道が整備され、料亭や芸妓が所属する置屋などが新道沿いに多く立ち並んで今の形となりました。古町は日本有数の花街となり、地方ではトップクラスの規模を誇るまでに発展していったのです。

ところが昭和初期以降、社会情勢が移り変わる中で芸妓は徐々に数を減らしていきました。そんな厳しい状況が続いた昭和62年、地元企業約80社が、組織として芸妓の養成・派遣を行う株式会社を立ち上げます。同社

古町芸妓の昔と今



古町花街の会事務局
久保 有朋 さん

が全国に先立ち芸妓の現代的雇用形態を確立させたことは、文化の断絶を食い止める大きな転換点となりました。平成25年からは、官民一体で設立された「古町芸妓育成支援協議会」が若手芸妓の技芸習得を後押ししています。「新潟をどり」をはじめとする地元のイベントで芸の披露の場が設けられるなど、まち全体で芸妓を支える体制は全国的に見ても大変先進的です。

古町花街の魅力を感じてほしい

私は今、古町花街の芸妓文化や歴史のある町並みを後世に伝えるため、イベントでの広報や景観の保全活動などを行っています。古町花街は、舞踊や邦楽、和食、歴史的町並みなど、あらゆる日本文化の一つの街で体感できる場所です。この魅力をより多くの人に感じてもらうよう、今後も活動を続けていきたいと思っています。

みなとまちの文化遺産を後世に

新潟県新型コロナ受診・相談センター
☎025-256-8275 (24時間対応。土・日曜、祝日も受け付け)